

平成29年9月15日

観光経済部 観光戦略課

TEL 0742-34-4739

平成28年 奈良市観光入込客数について

(今回のトピックス)

- 奈良市を訪れた観光客は、15,543千人と、平城遷都1300年祭のあった平成22年(18,415千人)以来、はじめて1,500万人を突破。
- 外国人観光客数は、1,576千人で、前年比61.64%増と大幅に増加。
 - ◎ 奈良市の観光案内所の外国人利用者数を国籍・地域別で見ると、前年比伸び率ではインドネシアが1位となり、奈良市が平成26年度から実施してきたプロモーションの効果が伺える。
 - ◎ 利用者数で見ると、全国的な数値においても上位を占める訪日五大市場(中国・韓国・台湾・香港・米国)以外では、フランスが利用者数の最上位であり、奈良市の特筆すべき傾向と言える。
- 修学旅行生数は、宿泊・日帰りともに増加し、合計で869千人となり前年比1.64%の増加。
全国の生徒数は、前年比0.84%の減少となっている中、堅調な伸びと言える。
 - ◎ 地方ブロック別に見ると、関東地方が前年比14.8%と大きく増加している。
 - ◎ 東京都区内公立中学校380校のうち、157校(41.3%)が奈良市に宿泊。
- 参考値ではあるが、奈良市内の観光消費額は、約1,013億円で、前年比18億円の増加。

1 観光客数の概要

平成 28 年中に奈良市を訪れた観光客は、15,543 千人と、前年の 14,976 千人に比べて 567 千人 (3.79%) 増加し、平城遷都 1300 年祭のあった平成 22 年 (18,415 千人) 以来、はじめて 1,500 万人を突破しました。

一般観光客数は、宿泊客が 1,211 千人で対前年比 4.65%減、日帰り客が 11,887 千人で対前年比 0.09%増、合計すると 13,098 千人で 0.37%の減となりました。

修学旅行で奈良市を訪れた観光客数は宿泊、日帰りともに増加し、合計で 1.64%の増加となりました。

外国人観光客数は、宿泊客が 252 千人で対前年比 11.01%増、日帰り客が 1,324 千人で 77.01%増、合計 1,576 千人で対前年比 61.64%増と大幅に増加しました。

表 1 奈良市観光入込客数

種別		平成 27 年観光 入込客数 (千人)	平成 28 年観光 入込客数 (千人)	増減 (千人)	増減率 (%)
一般	宿泊	1,270	1,211	▲59	▲4.65
	日帰	11,876	11,887	11	0.09
	計	13,146	13,098	▲48	▲0.37
修学旅行	宿泊	114	119	5	4.39
	日帰	741	750	9	1.22
	計	855	869	14	1.64
外国人	宿泊	227	252	25	11.01
	日帰	748	1,324	576	77.01
	計	975	1,576	601	61.64
合計	宿泊	1,611	1,582	▲29	▲1.80
	日帰	13,365	13,961	596	4.46
	計	14,976	15,543	567	3.79

2 主な増減要因

(1) 平成 28 年の全国の概況

平成 28 年の日本の観光の動向としては、5 月には、主要国首脳会議 (サミット) が伊勢志摩で開催され、世界から日本への注目度が高まりました。

一方、4 月に発生した熊本地震は、熊本城や観光・宿泊施設などに甚大な被害をもたらし、8 月から 9 月にかけて台風が北海道、東北、九州及び四国地方に大きな被害を与えるなど、自然災害が多く発生した 1 年でもありました。

訪日旅行の状況を見ると、平成 28 年の訪日外国人旅行者数は、年間 2,404 万人 (前年比 21.8%増) となり、初めて 2,000 万人を突破し、4 年連続で過去最高を更新しました。そのうち、アジアからの訪日外国人旅行者は、2,010 万人 (前年比 22.8%増) となり、訪日外国人旅行者全体に対して 83.6%を占めています。

また、訪日外国人旅行者による消費額は3兆7,476億円（前年比7.8%増）と、過去最高を更新しました。

国内旅行の状況を見ると、平成28年の日本人国内延べ旅行者数は6億4,108万人（前年比6.0%増）、日本人国内旅行消費額は21兆円（前年比2.7%増）となり、東日本大震災前の平成22年以降で最高の数字となりました。

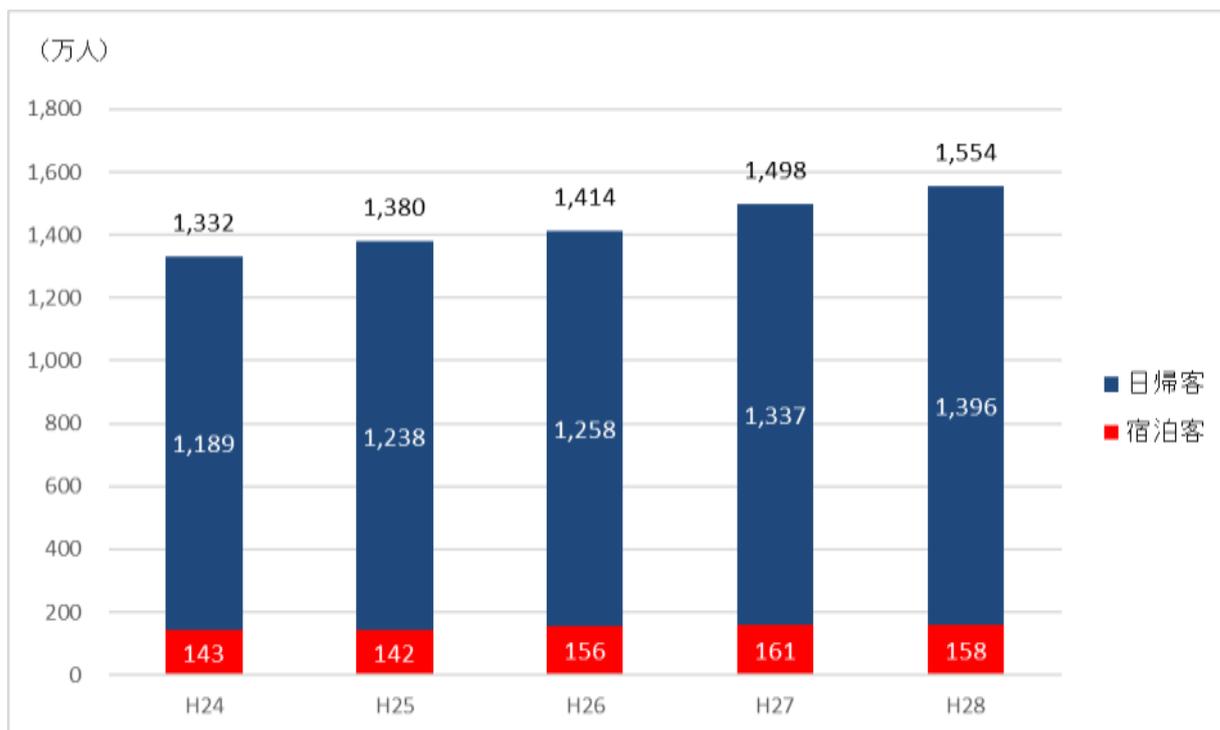
(2) 平成28年の奈良市の概況

奈良市においては、例年2月に世界遺産を含む社寺などをお茶席会場とし、三千家などの各茶道流派が一堂に会する「珠光茶会」の第三回が開催され、過去最高の9,470人の来場者を迎えました。

世界遺産である春日大社では、20年に一度の社殿の修築事業である「第六十次 式年造替」が平成27年から平成28年にかけて行なわれ、平成28年11月には、神様が修復された本殿へ還られる「本殿遷座祭」が盛大に執り行われました。

また、日本・中国・韓国の3か国で文化による発展をめざす都市を各国1都市選定して実施される、国家プロジェクト「東アジア文化都市」の平成28年日本開催都市に奈良市が選ばれ、1年を通じて様々な事業が行われました。特に9月から10月にかけては、コア期間プログラムとして、「舞台芸術」、「美術」、「食」の3つの部門を中心とした「古都祝奈良（ことほぐなら）— 時空を超えたアートの祭典」が開催され、奈良市の社寺、ならまち、平城宮跡などの場の力とそれを活かした文化や芸術を感じていただくとともに、世界に向けて古都奈良の魅力を発信しました。

図1 奈良市観光入込客数の推移（過去5年間）



(3) 奈良市への観光客数

各移動手段における、平成 28 年の観光客数を平成 27 年と比較すると、モーターは前年比 3.99%増、軌道は前年比 3.67%増と、どちらも増加しております。モーターの内訳を見ますと、普通車が 1.94%減、バスが 6.59%増となっていることから、外国人をはじめとする団体観光客のバスが昨年に引き続き増加する一方、個人観光客については車利用から電車利用へと徐々にシフトしている可能性が推察されます。

また、平城宮跡駐車場が平成 28 年 7 月より閉鎖したことも普通車減少の要因の一つと考えられます。

表 2 奈良市観光入込客数（移動手段別）

		平成 27 年 (千人)	平成 28 年 (千人)	増減 (千人)	増減率 (%)
軌道別	近鉄※	6,780	7,110	330	4.87
	JR※	2,775	2,796	21	0.76
	(小計)	9,555	9,906	351	3.67
モーター別	普通車	1,649	1,617	▲32	▲1.94
	バス	3,765	4,013	248	6.59
	二輪	7	7	0	0.00
	(小計)	5,421	5,637	216	3.99
計		14,976	15,543	567	3.79

※近鉄及び JR の入込客数は推計

平成 28 年の奈良市における全体の宿泊客数を平成 27 年と比較すると、1.80%減少しています。

宿泊客数の減少傾向は、全国的にも見られ、観光庁が公表している「宿泊旅行統計調査」の平成 27 年及び平成 28 年の全国の延べ宿泊者数（外国人含む）の増減を見ると、2.30%減と、奈良市よりも大きな減少幅となっています。

表 3 宿泊客数の増減比較（奈良市及び全国）

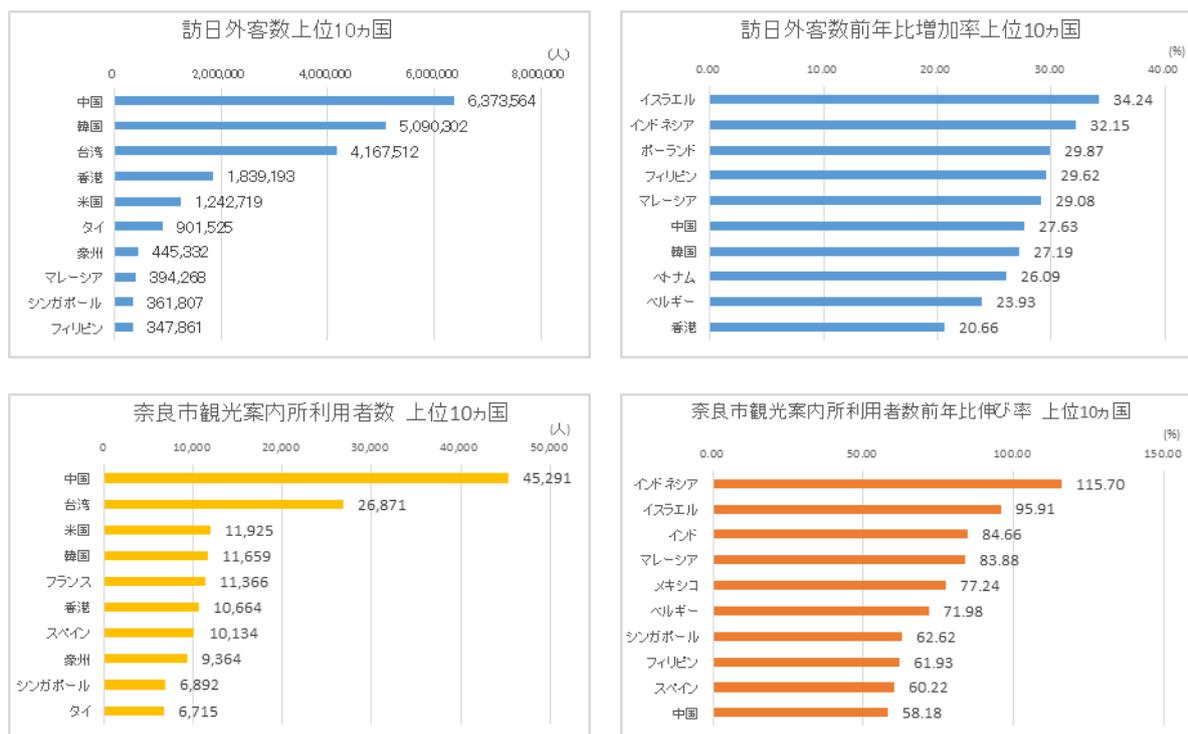
	平成 27 年 (千人)	平成 28 年 (千人)	増減率 (%)
奈良市	1,611	1,582	▲1.80
全国	504,078	492,485	▲2.30

(4) 外国人観光客数

JNTO（日本政府観光局）の発表によると、平成 28 年に日本を訪れた外国人観光客は、2,404 万人（対前年比 21.8%増）となり、初めて年間 2,000 万人を突破しました。好調を維持している要因としては、ビザ緩和や消費税免税制度拡充などの国の施策、CIQ 体制^{*}や多言語表記などの受け入れ環境体制整備の進展、LCC をはじめとする航空路線の拡充、海外プロモーション等情報発信の成果などが考えられます。

※ 税関（customs）、出入国審査（immigration）、検疫（quarantine）の総称で、外国人旅行者のスムーズな審査体制の実現を目指すもの。

図 2 訪日外客数及び奈良市観光案内所利用者数（上位 10 カ国）



※ 平成 28 年 3 月末をもって JR 奈良駅観光案内所が閉鎖されたため、観光案内所利用者数前年伸び率は、平成 27 年及び平成 28 年の JR 奈良駅観光案内所利用者数分を除いて算出。案内所の閉鎖による他の案内所への影響もあるため、前年比伸び率は参考値。

※ 前年比伸び率の上位 10 カ国は、利用者数 1,000 人以上の国籍・地域から集計。

JNTO が発表する全国の訪日外客数について国籍・地域別に見ると、昨年に引き続き、東アジアや東南アジアからの旅行者数が多く、全国籍・地域の約 8 割を占めます。また、増加率を見ると、東アジアや東南アジアの国々に加えてイスラエル、ポーランドといった国が上位に入っています。

奈良市の観光案内所の外国人利用者数について、国籍・地域別に見ると、前年比伸び率ではインドネシアが前年比 115.7%と最も高くなっております。また、奈良市観光案内所利用者には、フランスやスペインといった欧州の観光客が多く訪れているのも特徴の 1 つと言えます。そこで、前年比伸び率で 1 位のインドネシアと、全国的な数値においても上位を占める訪日五大市場（中国・韓国・台湾・香港・米国）以外で利用者数の最上位であり、奈良

市の特筆すべき傾向とも言えるフランスについて、2カ国の増加要因などのトピックスを以下のとおり示します。

インドネシア

	JR 奈良駅観光案内所を含む				JR 奈良駅観光案内所を含まない※	
	H24	H25	H26	H27	H27	H28
訪日外客数(人)	101,460	136,797	158,739	205,083	205,083	271,014
増減(前年比)(%)	63.9	34.8	16.0	29.2	29.2	32.1
市内案内所利用者数(人)	956	1,284	1,759	1,982	866	1,868
増減(前年比)(%)	94.7	34.3	37.0	12.6	-	115.7

- 平成 27 年 12 月に日系航空会社 2 社が燃油サーチャージを無料化したことや、平成 27 年に旅行博等で販売された低価格帯の旅行商品の売上げが好調であったことなど、訪日旅行に対する割安感から、訪日旅行者数が増加と想定される。
- 奈良市においては、インドネシアへの誘客プロモーションを実施しているが、平成 26 年度は航空会社 1 社・現地旅行代理店 6 社・メディア 2 社に対しプロモーションを行い、1 社が商品造成、奈良市へ誘客した。平成 27 年度は現地旅行代理店 9 社・メディア 2 社・小売店 1 社・政府機関 1 社・NPO 法人 1 社に対しプロモーションを実施した。また、Japan Travel Fair に出展、9 社にプロモーションを行い、4 社が商品造成、うち 2 社が奈良市へ誘客した。平成 28 年度は 5 社に対しファミトリップを行い、3 社が商品造成した。

フランス

	JR 奈良駅観光案内所を含む				JR 奈良駅観光案内所を含まない※	
	H24	H25	H26	H27	H27	H28
訪日外客数(人)	130,412	154,892	178,570	214,228	214,228	253,449
増減(前年比)(%)	36.6	18.8	15.3	20.0	20.0	18.3
市内案内所利用者数(人)	8,653	11,315	12,319	15,451	8,127	11,366
増減(前年比)(%)	81.4	30.7	8.9	25.4	-	39.8

- 平成 27 年 11 月の同時多発テロ発生以降、チュニジアやトルコなど旅行先として人気のある近隣諸国の不安定な情勢への懸念から、安全な旅行先として、アジアや中米への注目が高まっている。
- 平成 28 年の訪日外客数 253,449 人は、過去最高。平均滞在日数も 16.0 泊と、長期滞在者が多い。
- 観光庁「平成 28 年 訪日外国人消費動向調査」によると、訪日の目的として「美術館・博物館」「日本の歴史・伝統文化体験」「日本の日常生活体験」「日本のポップカルチャーを楽しむ」など、日本の文化体験に興味を持っている観光客の割合が高いことから、歴史的資源が豊富にある奈良市への訪問客も多い傾向にあると推察される。

※ 平成 28 年 3 月末をもって JR 奈良駅観光案内所が閉鎖されたため、平成 24 年から平成 27 年の数値と平成 28 年の数値は単純比較できない。また、平成 27 年及び平成 28 年の観光案内所利用者数増減(前年比)は、JR 奈良駅観光案内所利用者数を除いて算出。案内所の閉鎖による他の案内所への影響もあるため、前年比伸び率は参考値。

(5) 修学旅行生数

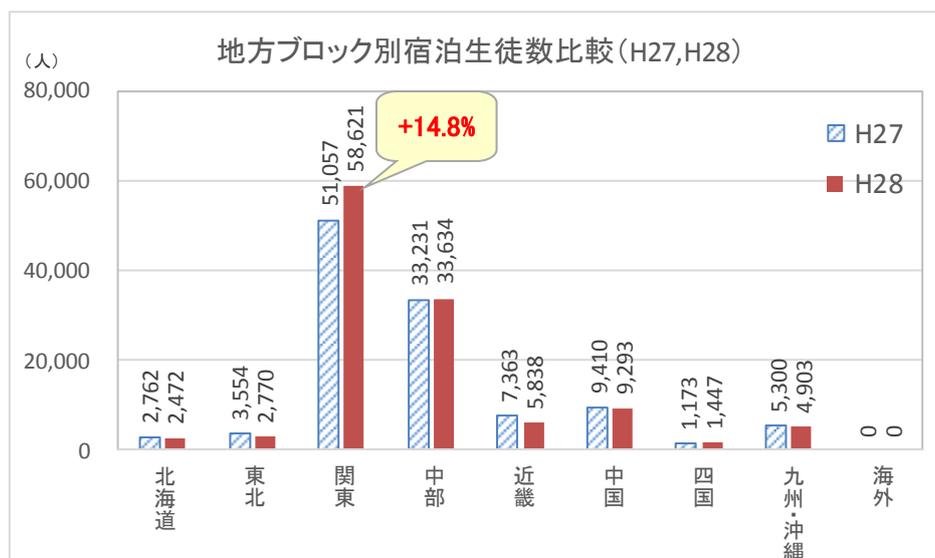
修学旅行生については、宿泊と日帰りを合わせた総数では対前年比 1.64%増加しています。
 なお、全国の生徒数は対前年比で 0.84%減少しています。

表 4 奈良市を訪れた修学旅行生数及び全国の生徒数推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H27→H28 増減率(%)
全国生徒数(千人)	14,125	14,022	13,890	13,754	13,663	13,555	13,441	▲0.84
奈良市を訪れた修学旅行生数 (千人)	1,026	816	825	876	899	855	869	1.64

注：奈良市を訪れた修学旅行生数は暦年値、全国生徒数は年度値
 出典（全国生徒数）：学校基本調査（文部科学省）

図 3 地方ブロック別宿泊生徒数（平成 27 年及び 28 年の比較）



地方ブロック別の宿泊修学旅行生数について、平成 27 年と平成 28 年とを比較すると、関東地方において+14.8%と大きく増加しており、特に関東地方においては、群馬県を除く 1 都 6 県において増加しています。

表 5 関東地方各県における宿泊修学旅行生数

県名	H27 (人)	H28 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)
茨城県	1,379	1,852	473	34.3
栃木県	1,534	1,834	300	19.6
群馬県	1,684	1,035	▲649	▲38.5
埼玉県	5,298	7,503	2,205	41.6
東京都	31,034	32,873	1,839	5.9
千葉県	2,357	3,988	1,631	69.2
神奈川県	5,174	6,811	1,637	31.6
山梨県	2,597	2,725	128	4.9

全国の生徒数が減少し続ける中、奈良市の宿泊修学旅行生数が増加した要因として、首都圏を中心とした教育旅行誘致活動の成果が考えられます。東京都をはじめとする関東地区では、平成 18 年より「奈良市東京観光オフィス」が首都圏での教育旅行誘致活動を実施しており、平成 28 年の修学旅行については、東京都区内公立中学校 380 校のうち、157 校（41.3%）が奈良市に宿泊しました。誘致を開始した平成 18 年（109 校）と比較すると、44%増加しています。

なお、首都圏の状況を見ると、平成 27 年からの修学旅行連合体列車の広島延伸や北陸新幹線開通の影響は、まだ見られません。

その他の修学旅行の動向として、千葉市の中学校のうち、毎年 5 校程度、長野から関西に方面変更（長野方面の学生専用列車運行不可の影響と、歴史学習の観点）をしていることなどが挙げられます。

今後は、平成 27 年頃から急増している訪日外国人客の影響で、大阪や京都の宿泊施設の確保がこれまで以上に困難になると想定され、宿泊先を近隣の他県に変更する学校が出てくる可能性が考えられます。歴史文化遺産といった教育資源が豊富にある奈良市の魅力を継続してアピールするとともに、薬師寺の出張法話や興福寺国宝館ナイトミュージアムなどの好評な企画もあることから、日帰り訪問から宿泊訪問へ移行してもらえるような企画立案や情報発信を積極的に進めていきたいと考えております。

【参考】奈良市内の観光消費額

「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき各都道府県が実施した調査結果によると、平成 27 年の奈良県における 1 人あたりの観光消費額[※]は、宿泊が 25,683 円、日帰りが 4,346 円となっております。

上記 1 人あたりの観光消費額に、奈良市の平成 28 年の観光入込客数を乗じて、奈良市の観光消費額を推計すると、約 1,013 億円（前年比 18 億円増）となります。

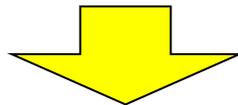
参考表 1 奈良市の観光消費額

	観光消費額単価 (奈良県 H27 年値)	観光入込客数 (奈良市 H28 年値)	観光消費額
宿泊客	25,683 円	1,582 千人	40,630,506 千円
日帰り客	4,346 円	13,961 千人	60,674,506 千円
合計			101,305,012 千円

(参考) 外国人のみを抽出して奈良市の観光消費額を推計

	観光消費額単価 (奈良県 H27 年値)	観光入込客数 (奈良市 H28 年値)	観光消費額
外国人宿泊客	22,662 円	252 千人	5,710,824 千円
外国人日帰り客	11,210 円	1,324 千人	14,842,040 千円
合計			20,552,864 千円

※ 平成 29 年 9 月 15 日現在、平成 28 年の奈良県における 1 人あたりの観光消費額は集計中であるため、平成 27 年の数値を利用。



観光消費額 約 1,013 億円（前年比 約 18 億円増）